

## 簡易公募型競争入札方式（総合評価落札方式）に係る手続開始の公示

次のとおり指名競争入札参加者の選定の手続を開始します。

平成28年10月18日

支出負担行為担当官

九州地方整備局長 小平田 浩司

### 1. 業務概要

(1) 業務名 損失補償標準単価（平成29年度版）作成業務（電子入札対象案件）

(2) 業務内容

本業務は、公共用地の取得に伴い必要となる建物、工作物、動産、立竹木、移転雑費及び営業の各補償金の算定のため、労務単価、資材価格、歩掛等の調査を行い、損失補償標準単価及びその内訳表を作成するものである。

主な業務内容は以下のとおりである。

- ・標準単価作成の基となる資材価格等の調査
- ・標準単価及び標準単価内訳等の作成

(3) 履行期間 契約締結日の翌日～平成29年3月31日

(4) 本業務は、技術提案を受け付け、価格以外の要素と価格を総合的に評価して落札者を決定する総合評価落札方式の適用業務である。また、(6)及び(7)（予定価格が500万円以上）に該当する業務については、技術提案の確実な履行の確保を厳格に評価するため、技術提案の評価項目に新たに「履行確実性」を加えて技術評価を行う試行業務である。

(5) 本業務は資料の提出、入札等を電子入札システムで行う対象業務である。なお、電子入札システムによりがたい場合は、九州地方整備局電子入札運用基準の様式1を支出負担行為担当官に提出し、その承諾を得なければならない。この場合、書面を持参又は郵送等により提出するものとし、電送（ファクシミリ）によるものは受け付けない。

電子入札システムによる手続に入った後に、紙入札方式への途中変更は原則として認めないものとするが、応札者側にやむを得ない事情があり、全体入札手続に影響がないと認めた場合に限り、例外的に認めるものとする。

九州地方整備局電子入札運用基準は、九州地方整備局のホームページ(<http://www.qsr.mlit.go.jp>)の入札・契約情報よりダウンロードできる。

なお、様式1の提出先及び受付時間は、次のとおりである。

1) 提出先：6.(1)に同じ。

2) 受付時間：土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日の9時00分～17時00分まで。

(6) 本業務は、予定価格が1,000万円を超える場合、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号。以下「予決令」という。）第85条の基準に基づく価格（以下「調査基準価格」という。）を下回って落札した業務においては、その業務の品質を確保するための対策を行う試行業務である。

(7) 本業務は、予定価格が500万円以上1,000万円以下の場合、業務品質確保の観点から九州地方整備局が品質確保の基準となる価格を定めるとともに、その価格を下回って落

札した業務においては、その業務の品質を確保するための対策を行う試行業務である。  
(8) 本業務は「低価格受注業務がある場合における予定主任担当者の手持ち業務量の制限等」の試行業務である。

## 2. 指名されるために必要な要件

### (1) 入札参加者に要求される資格

- ① 予決令第98条において準用する予決令第70条及び第71条の規定に該当しない者であること。
- ② 九州地方整備局（港湾空港関係を除く）における平成27・28年度補償関係コンサルタント業務に係る一般競争（指名競争）参加資格の認定を受けていること。
- ③ 九州地方整備局長から建設コンサルタント業務等に関し指名停止を受けている期間中でないこと。
- ④ 九州地方整備局の管轄区域（福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県又は鹿児島県）内に本店又は支店等営業所（一般競争（指名競争）参加資格審査申請書に記載された本店又は支店等営業所の住所による。）を有していること。
- ⑤ 警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する業者又はこれに準ずるものとして、国土交通省発注の建設コンサルタント業務等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。
- ⑥ 「補償コンサルタント登録規程」（昭和59年9月21日建設省告示第1341号、以下「登録規程」という。）第2条第1項の別表に掲げる当該業務に関連する部門（「物件部門」又は「総合補償部門」）の登録を受けていること。
- ⑦ 道路関係業務の執行のあり方改革本部最終報告書（平成20年4月17日付）I.《改革の方針について》（3）1.③に掲げる法人でないこと。
- ⑧ 入札に参加しようとする者の間に以下の基準のいずれかに該当する関係がないこと。

#### 1) 資本関係

以下のいずれかに該当する二者の場合。ただし、子会社または子会社の一方が更生会社または更生手続が存続中の会社等（会社法施行規則第2条第3項第2号の規定による会社などをいう。以下同じ。）である場合は除く。

(イ) 親会社と子会社の関係にある場合

(ロ) 親会社を同じくする子会社同士の関係にある場合

#### 2) 人的関係

以下のいずれかに該当する二者の場合。ただし(イ)については、会社等の一方が更生会社又は更生手続が存続中の会社等である場合は除く。

(イ) 一方の会社等の役員が、他方の会社等の役員を現に兼ねている場合

(ロ) 一方の会社等の役員が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合

#### 3) その他入札の適正さが阻害されると認められる場合

その他上記1)又は2)と同視しうる資本関係又は人的関係があると認められる場合。

### (2) 参加表明書に関する要件

#### 1) 参加表明書の提出者に対する要件

##### ① 同種又は類似業務の実績

平成18年度以降公示日までに完了した業務（再委託による業務の実績は含まない）のうち、下記に示される「同種又は類似業務」の実績を有さなければならない。

・ 同種業務：国、特殊法人等、地方公共団体、その他土地収用法第3条各号

一に規定する事業を行う者が使用する建物、工作物、動産、移転雑費、営業補償及び立竹木のいずれかの補償標準単価（当該事業者が施行する事業に伴う補償金算定において標準的に使用するもの）を作成する業務。

・類似業務：国、特殊法人等、地方公共団体、その他土地収用法第3条各号一に規定する事業を行う者が発注した業務で、建物、工作物、動産、移転雑費、営業補償及び立竹木にかかる標準単価等を使用し、補償金算定を行う業務

なお、同種又は類似業務の実績は、国、都道府県、政令市、市町村、特殊法人等（注1）、特別地方公共団体（注2）、地方公社等（注3）、公益法人（注4）が発注した契約金額100万円を超える業務を対象とする

注1）特殊法人等とは、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律施行令第1条に示すものに加え国土交通省所管のその他の独立行政法人、地方共同法人日本下水道事業団をいう。

注2）特別地方公共団体とは、地方公共団体の組合、財産区、及び地方開発事業団をいう。

注3）地方公社等とは、地方道路公社法に基づく道路公社、公有地の拡大の推進に関する法律に基づき都道府県が設置した「土地開発公社」、地方住宅供給公社法に基づき都道府県が設立した「住宅供給公社」とする。

注4）公益法人とは、次のものをいう。

一 公益法人とは、一般社団法人又は一般財団法人に関する法律に基づき設立された一般社団法人又は一般財団法人、及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律に基づき認定を受けた公益社団法人又は公益財団法人。

二 旧民法第34条の規定により設立された社団法人又は財団法人であって、平成20年12月1日現在、現に存する法人であって、新制度の移行の登記をしていない法人（特例社団法人又は特例財団法人）

②実績として挙げた業務評定点が60点以上であること。ただし、評定通知を受けていないため業務成績を評価できない場合、又は「地方整備局委託業務等成績評定要領」（平成14年9月5日付け国官技第142号、平成20年9月26日付け国官技第126号及び平成23年3月28日付け国官技第360号）に基づく業務以外の場合は、この限りではない。また、調査基準価格を下回った業務の実績において、成績評定点が70点未満の場合は、業務実績として認めない。

③平成26年度以降公示日までに完了した業務のうち、九州地方整備局発注業務（港湾空港関係を除く）の平均業務評定点が60点以上であること。

ただし、評定通知を受けていないため業務成績を評価できない場合、又は100万円を超える九州地方整備局発注業務（港湾空港関係を除く）の実績がない場合は、この限りではない。

## 2) 配置予定技術者に対する要件

外国資格を有する技術者（わが国及びWTO政府調達協定締約国その他建設市場が開放的であると認められる国等の業者に所属する技術者に限る。）については、あらかじめ技術士相当又はRC CM相当との旧建設大臣認定（建設経済局建設振興課）または国土交通大臣認定（総合政策局建設振興課又は建設市場整備課）を受けている必要がある。なお、参加表明書の提出期限までに当該認定を受けていない場合にも参加表明書を提出することができるが、この場合、参加表明書提出時に当該認定

の申請書の写しを提出するものとし、当該業者が指名を受けるためには指名通知の日までに大臣認定を受け、認定書の写しを提出しなければならない。

①配置予定主任担当者

配置予定主任担当者については下記の(1)、(3)、(4)に示す条件を満たす者であり、(2)の実績を有する者であることとする。

(1)下記のいずれかの資格を有する者

[1]登録規程第2条第1項の別表に掲げる当該業務に関連する「物件部門」又は「総合補償部門」の補償業務管理士。

[2]登録規程第2条第1項の別表に掲げる当該業務に関連する「物件部門」又は「総合補償部門」に係る補償業務に関して7年以上の実務経験を有する者（但し、「総合補償部門」にあつては、補償業務に関し7年以上の実務経験を有する者であつて、5年以上の指導監督的実務経験を有する者（※1）又はこれと同程度の実務の経験を有するものとして国土交通省が認定した者（※2））。

※1 民間コンサルタントでの経験にあつては、用地調査等共通仕様書第2条第5号の主任担当者及び用地補償総合技術業務共通仕様書第2条九の担当技術者の定義による経験とする。

※2 行政機関等の職員時の経験にあつては、「補償コンサルタント登録規程の施行及び運用について」（平成20年10月1日付け国土用第43号）の記2（4）の定義による経験とする。

(2)下記のいずれかの実績を有する者。

主任担当者又は業務従事者として担当した業務の内、平成18年度以降公示日までに完了した業務（再委託による業務の実績は含まない）のうち、以下に記載する「同種又は類似業務」において1件以上の実績を有する者。

・同種業務：国、特殊法人等、地方公共団体、その他土地収用法第3条各号一に規定する事業を行う者が使用する建物、工作物、動産、移転雑費、営業補償及び立竹木のいずれかの補償標準単価（当該事業者が施行する事業に伴う補償金算定において標準的に使用するもの）を作成する業務。

・類似業務：国、特殊法人等、地方公共団体、その他土地収用法第3条各号一に規定する事業を行う者が発注した業務で、建物、工作物、動産、移転雑費、営業補償及び立竹木にかかる標準単価等を使用し、補償金算定を行う業務

なお、同種又は類似業務の実績は、国、都道府県、政令市、市町村、特殊法人等（注1）、特別地方公共団体（注2）、地方公社等（注3）、公益法人（注4）が発注した契約金額100万円を超える業務を対象とするが、照査技術者としての実績は対象外とする。業務実績には、発注者としての補償業務全般に関する指導的実務の経験3年以上を含む20年以上の実務経験を有する者も、それぞれの発注機関毎の同種業務の実績として認める。

なお、実績として挙げた業務の業務評定点が60点以上であること。ただし、評定通知を受けていないため業務成績を評価できない場合、又は「地方整備局委託業務等成績評定要領」（平成14年9月5日付け国官技第142号、平成20年9月26日付け国官技第126号及び平成23年3月28日付け国官技第360号）に基づく業務以外の場合は、この限りではない。また、調査基準価格を下回った業務の実績において、成績評定点が70点未満の場合は、業務実績として認めない。

注1）特殊法人等とは、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律施行令第1条に示すものに加え国土交通省所管のその他の独立行政法

人、地方共同法人日本下水道事業団をいう。

注2) 特別地方公共団体とは、地方公共団体の組合、財産区、及び地方開発事業団をいう。

注3) 地方公社等とは、地方道路公社法に基づく道路公社、公有地の拡大の推進に関する法律に基づき都道府県が設置した「土地開発公社」、地方住宅供給公社法に基づき都道府県が設立した「住宅供給公社」とする。

注4) 公益法人とは、次のものをいう。

一 公益法人とは、一般社団法人又は一般財団法人に関する法律に基づき設立された一般社団法人又は一般財団法人、及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律に基づき認定を受けた公益社団法人又は公益財団法人。

二 旧民法第34条の規定により設立された社団法人又は財団法人であって、平成20年12月1日現在、現に存する法人であって、新制度の移行の登記をしていない法人（特例社団法人又は特例財団法人）

(3) 平成28年10月18日現在の手持ち業務量（本業務は含まない。契約済及び特定後未契約のものを含む）が1億円未満かつ10件未満である者。ただし、平成28年10月18日現在での手持ち業務のうち、国土交通省の所管に係る建設コンサルタント業務等において調査基準価格を下回る金額で落札した業務（港湾空港関係を除く）がある場合には、手持ち業務量の件数を10件未満から5件未満に読み替える。その上で、予定主任担当者が手持ち業務量の制限を満たすことが確認できない場合には、九州地方整備局競争契約入札心得（平成24年3月30日付け国九整達第9号）第6条第11号の規定により、入札に関する条件に違反した入札として、その入札を無効とするものとする。

また、本業務の履行期間中は主任担当者の手持ち業務量が、契約金額で1億円、件数で10件の業務量（平成28年10月18日現在での手持ち業務に、国土交通省の所管に係る建設コンサルタント業務等で調査基準価格を下回る金額で落札した業務（港湾空港関係を除く）がある場合には、契約金額で1億円、件数で5件の業務量）未満とし、この業務量以上となった場合には、遅滞なくその旨を報告しなければならない。その上で、業務の履行を継続することが著しく不相当と認められる場合には、当該主任担当者を、以下の①から④までのすべての要件を満たす技術者に交代させる等の措置請求を行う場合があるほか、業務の履行を継続する場合であっても、本業務の業務成績評価に厳格に反映させるものとする。

- ① 当該主任担当者と同等の同種又は類似業務実績を有する者
- ② 当該主任担当者と同等の技術者資格を有する者
- ③ 当該主任担当者と同等以上の業務成績平均点を有する者
- ④ 手持ち業務量が当該業務の入札説明書又は特記仕様書において設定している予定主任担当者の手持ち業務量の制限を超えない者

手持ち業務とは、主任担当者又は担当技術者となっている契約金額500万円以上の国土交通省以外の発注者（国内外を問わず）のものを含んだ全ての業務。

(4) 平成24年度以降公示日までに完了した業務について、主任担当者として担当した九州地方整備局発注業務（港湾空港関係を除く）の平均技術者評定点（主任担当者が60点以上であること。

ただし、評価通知を受けていないため技術者評定点を評価できない場合、又は1

00万円を超える九州地方整備局発注業務（港湾空港関係を除く）の実績がない場合は、この限りではない。

### 3. 入札参加者を選定するための基準

建設コンサルタント業務等請負業者選定事務処理要領に定める指名基準による。なお、同基準中の「当該業務における技術的適性」については、同種又は類似業務の実績並びに配置予定の技術者の資格、業務の経験、業務成績及び手持ち業務等を勘案するものとする。

### 4. 総合評価に関する事項

#### (1) 落札者の決定方法

入札参加者は、価格及び技術提案書をもって入札をし、次の各要件に該当するものうち下記(2)総合評価の方法によって得られた数値（以下「評価値」という。）の最も高い者を落札者とする。

1) 入札価格が予決令第79条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内であること。なお、予定価格は設計図書に基づき算出するものとする。

ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した他の者のうち評価値が最も高い者を落札者とすることがある。

2) 落札者となるべき者の入札価格が予決令第85条に基づく調査基準価格を下回る場合は、予決令第86条の調査を行うものとする。

3) 本業務は、予決令第85条に基づく調査基準価格を下回って落札した場合は、その業務の品質を確保するため以下の対策を行うものとする。

①現場常駐の義務化

②第三者の照査の義務化

なお、内容については、特記仕様書によるものとする。

4) 本業務が、予決令第85条に基づく調査基準価格を下回る価格で契約がなされた場合は、下記対策の対象となる。

①業務評定点が70点未満は、企業及び主任担当者の実績として認めない。

5) 上記において、評価値の最も高い者が2人以上あるときは、該当者にくじを引かせて落札者を決める。

#### (2) 総合評価の方法

##### 1) 評価値の算出方法

評価値の算出方法は、以下のとおりとする。

評価値＝価格評価点＋技術評価点

##### 2) 価格評価点の算出方法

価格評価点の算出方法は、以下のとおりとする。

価格評価点＝(価格評価点の配分点)×(1－入札価格／予定価格)

なお、価格評価点の配分点は60点とする。

##### 3) 技術評価点の算出方法

技術提案書の内容に応じ、下記①、②、③の評価項目毎に評価を行い、技術評価点を与える。ただし、③については本業務の予定価格が500万円以上の場合に評価項目とする。

①予定技術者の経験及び能力

②実施方針等

③技術提案の履行確実性

技術評価点の算出方法は、以下のとおりとする。

技術評価点 = 60点 × (技術評価の得点合計 / 技術評価の配点合計)

なお、③技術提案の履行確実性を評価項目とする場合は、技術評価の得点合計及び技術提案評価点の算出は以下のとおりとする。

技術評価の得点合計 = (①に係る評価点) + (技術提案評価点) × (③の評価に基づく履行確実性度)

技術提案評価点 = (②に係る評価点)

4) 総合評価は、入札者の申し込みに係る上記①、②、③により得られた技術評価点と当該入札者から求められる価格評価点の合計値(評価値)をもって行う。

5) 詳細は、入札説明書による。

## 5. 品質確保基準価格

(1) 予定価格が500万円以上1,000万円以下の業務においては、品質確保の観点から九州地方整備局が定めた価格(以下「品質確保基準価格」という)により、その価格を下回った場合は、「4.(1)落札者の決定方法2)」と同様の調査及び「4.(1)落札者の決定方法3)」と同一の品質確保対策を行うものである。

(2) 「4.(1)落札者の決定方法2)及び3)」に記載されている「調査基準価格」は「品質確保基準価格」に、「予決令第86条の調査」は「品質確保基準価格調査」に読み替えて適用する。

(3) 品質確保基準価格の算出方法は、調査基準価格に準じて算出するものとする。

## 6. 入札手続等

### (1) 担当部局

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-10-7 福岡第二合同庁舎

九州地方整備局 総務部 契約課 契約第二係(内線2532)

電話092-471-6331 FAX092-476-3459

### (2) 入札説明書の交付期間、場所及び方法

電子入札システムにより交付する。

交付期間は別表1③に示す日時。

但し、電子入札に対応していない等の理由でダウンロードによる入手ができない場合は、交付終了日の2日前までに上記6.(1)の担当部局に連絡すること。

### (3) 参加表明書を提出できる者の範囲

参加表明書を提出する時において、上記2.(1)②に掲げる一般競争(指名競争)参加資格の認定を受けている者及び2.(1)④に掲げる本支店等の登録を行っている者とする。

### (4) 参加表明書の提出期限並びに提出場所及び方法

1) 提出期限: 別表1①に示す日時

2) 提出場所: 上記6.(1)に同じ

3) 提出方法: ①電子入札対応の場合

電子入札システムにより提出。ただし、容量が3MBを超える場合は、持参又は郵送(書留郵便に限る。提出期限までに必着。)する

こと。

②発注者の承諾を得て紙入札方式による場合

持参又は郵送（書留郵便に限る。提出期限までに必着。）すること。

(5) 技術提案書の提出期限並びに提出場所及び方法

1) 提出期限：別表1④に示す日時

2) 提出場所：上記6.(1)に同じ。

3) 提出方法：①電子入札対応の場合

電子入札システムにより提出。ただし、容量が3MBを超える場合は、持参又は郵送（書留郵便に限る。提出期限までに必着。）すること。

②発注者の承諾を得て紙入札方式による場合

持参又は郵送（書留郵便に限る。提出期限までに必着。）すること。

(6) 入札及び開札の日時及び場所並びに入札書の提出方法

1) 入札書の締切日時

別表1⑤に示す日時

2) 入札書の提出方法

電子入札対応の場合

電子入札システムにより提出すること。

紙入札方式による場合

持参すること。

3) 提出場所

6.(1)に同じ。

4) 開札の日時及び場所

開札は、別表1⑥に示すとおり。

## 7. その他

(1) 手続において使用する言語及び通貨

日本語及び日本国通貨に限る。

(2) 入札保証金及び契約保証金

1) 入札保証金 免除。

2) 契約保証金 免除。

(3) 入札の無効

本公示に示した指名されるために必要な要件を満たさない者のした入札、参加表明書及び技術提案書に虚偽の記載をした者のした入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする。

(4) 手続きにおける交渉の有無 無。

(5) 契約書作成の要否 要。

(6) 関連情報を入手するための照会窓口 上記6.(1)に同じ。

(7) 本業務の予定価格が500万円を超える場合は、技術提案書（履行現実性の審査に必要な部分に限る。）のヒアリングを実施するとともに、ヒアリングに際して追加資料の提出を求めることがある（入札説明書参照）。

(8) 詳細は入札説明書による。

別表 1

①	参加表明書の提出期限日	平成28年10月28日
②	指名通知の日	平成28年11月10日を予定する。
③	説明書の交付期間	平成28年10月18日～平成28年12月8日までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、9時00分から18時00分まで。
④	技術提案書の提出期限	平成28年11月21日17時00分まで
⑤	入札書の締切日時	平成28年12月8日 17時00分
⑥	開札の日時及び場所	開札は、平成28年12月9日10時00分九州地方整備局総務部契約課入札室にて行う。